兵庫県立加古川医療センター

県かこ 地域医療連携ニュース vol.70

2016年8月号
発　行／
兵庫県立加古川医療センター
〒675-8555
加古川市神野町神野203番地
TEL: 079-497-7000（代表）
TEL: 079-497-7011（地域医療連携部直通）
FAX: 079-438-3756（地域医療連携部直通）
http://www.kenkako.jp/

もくじ

● 放射線治療リニアック装置の更新 …… ①
● 診療科紹介　総合内科 …… ②
● 部署紹介　検査・放射線部　検査部門 …… ③
● 部署紹介　看護部 …… ④

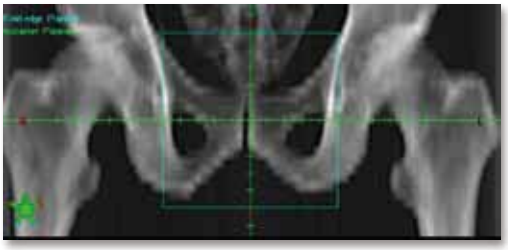
放射線治療リニアック装置を更新しました

放射線治療リニアック装置が、平成28年３月に更新され、より高精度の放射線治療が行うことができるようになりました。

常勤２名・非常勤３名の放射線治療専門医と放射線治療専門放射線技師や放射線治療品質管理士により、高精度な放射線治療を実施しております。

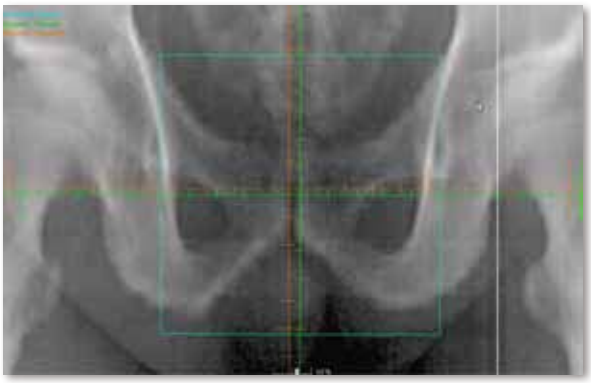
放射線科が直接治療ベッドを管理しており、入院での放射線治療も行っております。疼痛や麻痺などに対する緊急放射線治療などにも柔軟に対応しておりますので、いつでもお気軽にお電話などでご連絡ください。

治療計画時の中心（緑線）



治療時の中心（オレンジ線）

画像を重ねて数ミリのずれを修正して放射線を照射します。



地域医療機関の皆様へ

地域医療連携部を通じて、放射線治療の相談を受け付けています。
お問い合わせ・ご相談は、地域医療連携部（直通電話 079-497-7011、FAX079-438-3756
受付時間 9：00～17：00）までご連絡ください。

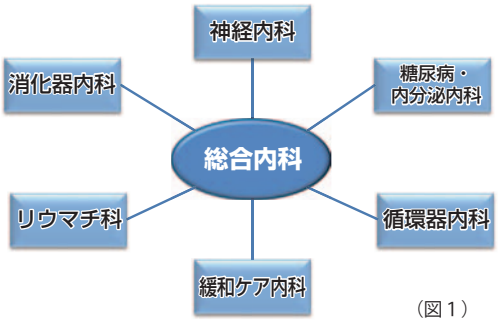
診療科紹介

総合内科

総合内科主任医長　日野　泰久

総合内科の特色

当院内科は特色ある専門医療を提供できるよう各専門内科が設けられていますが、内科疾患は常に包括的な観点より診療にあたる必要があり、総合内科は多種の症候と疾病に対し、より広い観点より病態を見渡せる診療科として、内科領域のプライマリケアの中心的役割を担っています。



（図１）

当センターには各専門内科のみならず、各科領域の専門医がそろっており、連携をとりながら診療をすすめられる強みを活かし、内科領域全般につき診療にあたっています。当科に紹介頂く症例には、複数の内科分野にまたがる疾患を有しているものも多く、内科診断学を駆使して病態解析を行い、より効果的な治療につながるように努めています。

総合内科の実績

平成27年度は延にして4863人の外来診療と300人の入院診療にあたりました。平成27年度の入院診療疾患の内訳は図２のようになっていますが、総合内科的観点より、呼吸器疾患、消化器疾患、神経疾患についても、common diseaseに対しては、専門内科と連携して診療にあたっています。当科の特徴として、不明熱、電解質異常など確定診断がつかず入院されるケースも多く、内科診断学を駆使し、感染症、腫瘍疾患、膠原病、アレルギー疾患、血液疾患等、あるいは内分泌疾患、代謝疾患等の鑑別診断を行い、治療にあたっています。昨今、臨床研修においても、内科プライマリケアの重要性が認識され、総合内科的な診療能力の習得が必要とされていることもあって、研修医や専攻医など若手の先生が活躍する診療科になりつつあり、総合内科診療の幅が広がっていくのではと考えています。

平成27年度の入院診療疾患の内訳

呼吸器疾患（肺炎など）	72
消化器疾患（胃腸炎、肝障害、胆管炎など）	65
神経疾患（意識消失発作、髄膜炎など）	20
血液疾患（貧血、悪性リンパ腫など）	22
感染症、膠原病、不明熱	58
代謝疾患（糖尿病、電解質異常など）	36

（図２）

地域医療機関の先生方へ

内科の各専門領域にあてはまらず、一般内科的な診療を希望される症例であれば、総合内科にご紹介、ご相談ください。また、先生方でご診療に当たられているなかで、もう少し深く検査検討することが望ましいのではないかとお考えになる場合なども、ご紹介、ご相談頂ければ、内科診断学を駆使して病態解析、治療方針を検討し、必要に応じ各専門内科へのコンサルトを含め対応させて頂きます。当院での加療が落ち着きましたら、先生方のもとへ紹介させていただくことも多いと存じますが、なにとぞよろしくお願い申し上げます。ご紹介頂く際、患者さんの待ち時間を少しでも短縮し、スムーズに診療にあたらせて頂けるよう、外来予約をお願い致します。

総合内科スタッフと内科専攻医、初期研修医

総合内科スタッフ紹介

日野　泰久	平成５年卒	（糖尿病・内分泌内科兼務）
髙橋　直人	平成14年卒	
中村　幸子	平成14年卒	（糖尿病・内分泌内科兼務）
大北　弘幸	平成17年卒	
山内　健史	平成21年卒	（糖尿病・内分泌内科兼務）

部署紹介

検査・放射線部　検査部門

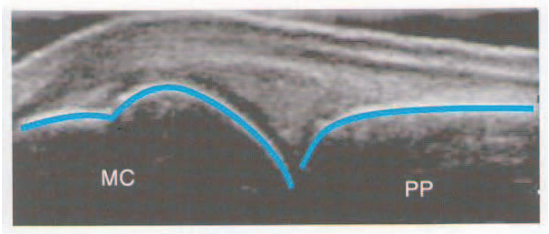
臨床検査は病気の診断や治療方針の決定などに必要不可欠な手段です。検査部では32名の臨床検査技師が検体検査や生理検査などさまざまな検査を実施しています。当センターでは平成28年4月1日にリウマチ膠原病センターが開設されました。それに伴い検査部でも新たな検査を導入し、診療に役立つ情報を提供しています。今回は関節リウマチの検査の中から、超音波検査について紹介します。

関節リウマチの診断・治療は症状が出てから半年が勝負!!

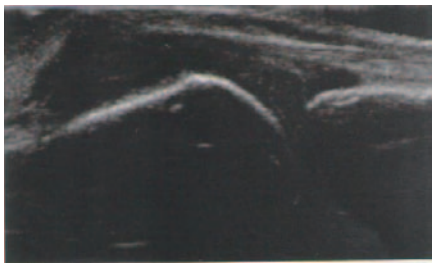
【関節超音波検査】

現在、関節リウマチはいかに早く見つけて早く治療に入るかが重要とされています。関節超音波検査は簡便に行うことができ、一度に複数の関節を評価できるため急速に広まっている検査です。滑膜炎や骨びらんの検出に優れていて、X線では描出されない早期病変を見つけることが可能です。さらに他の疾患との鑑別にも有用で、診断感度だけでなく特異度が上がることも期待できます。現在、関節超音波検査は予約で毎週火・木曜日の午後に行っており、検査に要する時間は約60分です。

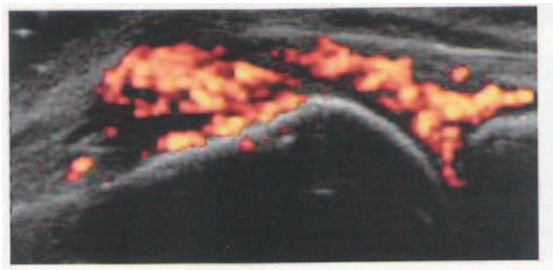
第２指中手指節間（MCP）関節の検査の様子



正常像（MC：中手骨　PP：基節骨）



MCP関節滑膜炎（Bモード）
Bモードでは高度の滑膜肥厚、滑液貯留を認めます

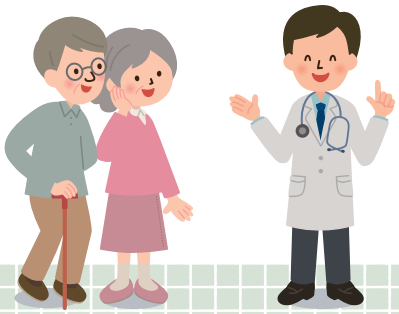


MCP関節滑膜炎（パワードプラ）
パワドプラでは、肥厚した滑膜全体に高度の血流シグナルを認めます

《関節エコー評価ガイドライン（日本リウマチ学会）から引用》

地域医療機関の先生方へ

超音波検査など生理機能検査を依頼される場合は、地域医療室を通じて各診療科医師にご相談ください。



部署紹介

看護部：皮膚・排泄ケア認定看護師の紹介

皮膚・排泄ケア認定看護師の仲上直子と申します。平成25年に資格を取得し、今年で４年目を迎えました。私が担当する分野は、創傷・ストーマ・失禁ケアと多岐に渡ります。「退院後の生活も支える」ことをモットーに、多職種と連携しながらケアを行っています。今回、その活動の一部をご紹介させて頂きます。

多職種と連携した褥瘡対策委員会での活動

当センターでは、皮膚科医師・形成外科医師・看護師・薬剤師・作業療法士・医事企画課員で構成された委員会活動を行っています。委員会では、ポジショニングや局所ケア技術の向上に向けて多職種で意見交換を行うことや、患者さん・ご家族に向けてのパンフレット作成など多方面から褥瘡ケアの質の向上を目的に活動しています。私自身は、活動内容と実際の現場での課題が一致しているかなどの調整役を担うとともに、有病率などのデータ管理を行っています。また、褥瘡対策勉強会を開催しており、２年前より地域の皆さま方にもご参加頂けるようにお知らせしております。昨年度は９回の勉強会を開催し、175名（延べ）の地域の皆様方がご参加下さいました。勉強会では、医師・管理栄養士・理学療法士などを講師とし、様々な専門的視点から企画致しました。ご参加頂いた方からは、「次年度もぜひ参加したい」というお声や、勉強会終了後に直接ご質問を頂くこともあり、私自身の大きな活力になっております。今年度も７月より、毎月第1木曜日に開催しておりますので、是非ご参加頂ければと思います。詳細は当センターのホームページをご参照ください。

ストーマを保有して生活する方を支える活動

当センターでは年間約40件のストーマ造設手術が施行されています。80歳代を超える患者さんや緊急でストーマ造設を余儀なくされた患者さんの場合、退院後に他者の介入を必要とする時があります。このような中で、訪問看護ステーションのスタッフの方々との連携は大変重要であると感じています。昨年度も複数のステーションの方々と連携させて頂きました。情報提供書や電話などを通じ、ケアの状況をお伝えし、密な連携ができるよう心がけています。

患者さん・ご家族の生活を支えるためには、地域の皆さまとの連携が必須であると考えております。今後ともどうぞ、よろしくお願い申し上げます。